

発掘ニュース

第 / 号

昭和 57 年 9 月 20 日

発行 財団法人 いわき市教育文化事業団

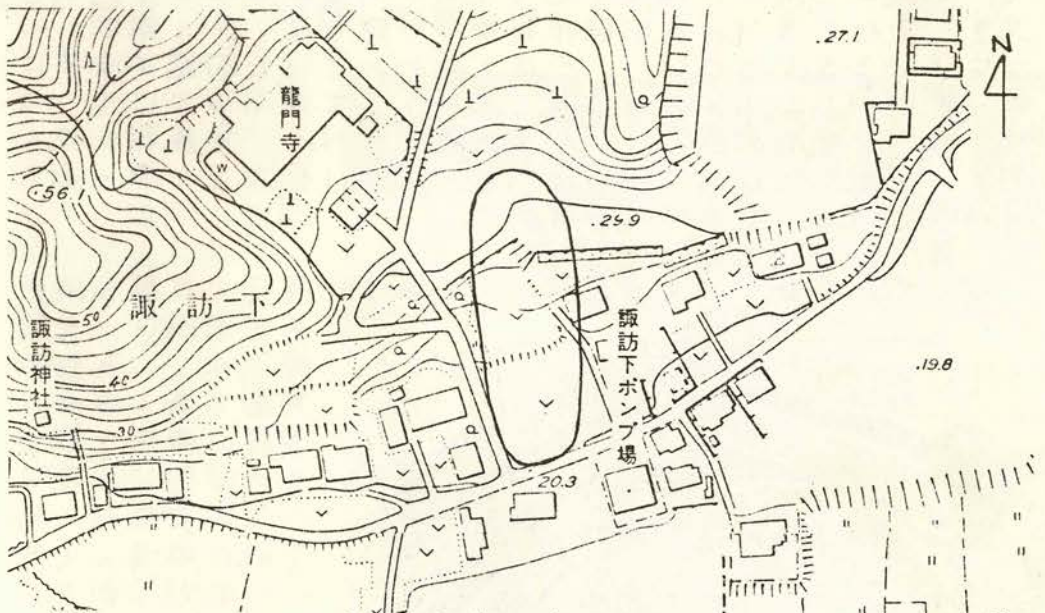
龍門寺遺跡

龍門寺遺跡(りゅうもんじいせき)は、いわき市平下荒川字諏訪下地内に位置し、滑津川のすぐ近くにあります。この遺跡は、県道平磐城線(通称鹿島街道)のバイパス予定区域内になり、壊されてしまうので、その工事が始まる前に発掘調査をすることになりました。

どうしてここに遺跡があるのがわか、たかという、土砂採りのため削、た斜面に土器を含んだま、黒な土(遺物包含層)がみられ、斜面の下には、雨に流されてたくさんの土器がおちていたからです。その土器を観察すると縄文~平安時代のもので、いわき市内では、あまり良く知られていないものが多く、重要な遺跡であることがわか、たのです。

発掘調査は、道路工事にさきがけて、今年8月から来年3月まで続けられます。調査の結果わか、たことは、一冊の報告書とな、て刊行されますが、みんなにより理解してもらうために、わか、たことをそのつど簡単にまとめたので、お読み下さい。

とじておきましょう

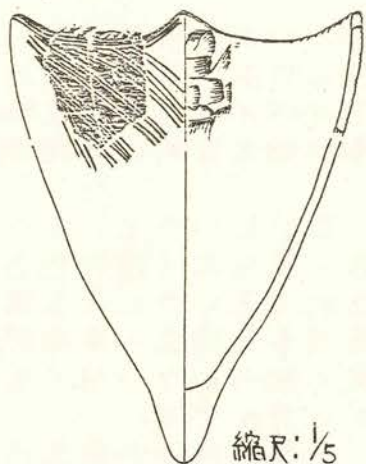


龍門寺遺跡位置図

縄文時代 (およそ10,000年～2300年前)

人々が弓矢を使って狩りをしたり、^{モリ}銚や^{ツボ}釣針で漁をしていた時代です。また食用の植物も採集していました。住居は、竪穴式住居や平地式住居を用いましたが、自然の洞くつにも住みました。土器は、年代と地域によって文様の差はあるが、つねに作られていました。石器では、矢の先につけたヤジリやオノが多く使われ、鹿の角や魚の骨で作った骨角器は、銚や釣針として使用しました。

しかし、やがて大陸から「イネ」というすぐれた農耕文化が伝わり、てきて、長く続いた縄文時代も終わりをつげます。



縮尺: 1/5

龍門寺遺跡出土の縄文土器

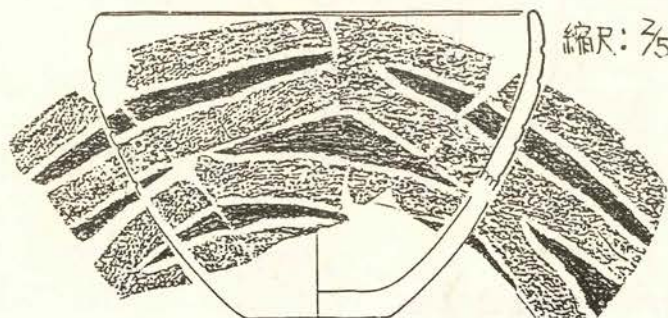
畑の約50cm下から出土した深鉢の破片です。文様は細い植物の茎を半分にし、その先端で描きます。この頃の土器は、口のところが大きく波打ち、底も天狗の鼻のように尖るのが大きな特徴といえます。

弥生時代 (およそ2300年～1700年前)

今から約2300年前に大陸から稲が伝わり、てきたことにより、これまで続いた採集中心の生活から農耕中心の生活へと大きく変化します。水田耕作により一定のところに落ちついて生活できるようになり、今まで使われていた石器のほかにも稲の穂を刈り取るための道具(石包丁)も使うようになります。また、織物が盛んに行われるようになり、金属器が伝わり、て、鉄器が普及するようになると生産は拡大し、衣・食・住は安定するようになります。

龍門寺遺跡出土の弥生土器

縄文時代晩期(いちばん最後の時期)に盛行した磨製縄文



縮尺: 3/5

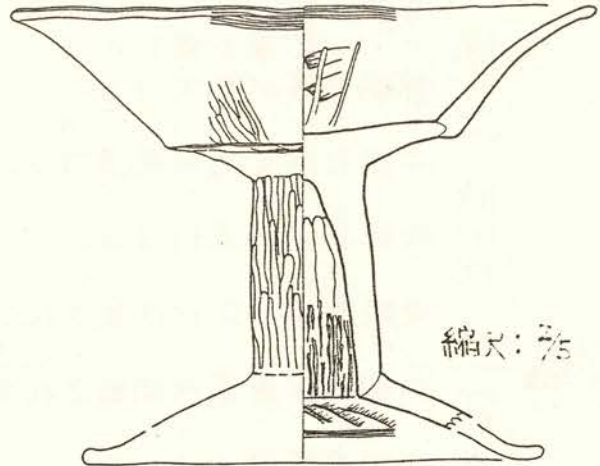
手法を用い、朱が塗られている鉢。お祭りあるいは、埋葬に使用されたものと思われます。この文様は、弥生時代中頃の土器の特徴をこめずとも、一つです。

古墳時代

古墳時代は、お墓（古墳）に代表される時代で、弥生時代につづき、4世紀（約1700年前）から7世紀頃まで続きました。古墳は、当時の地域の代表者、首長者層が葬られたもので、形のちがいで、円墳、方墳、前方後円墳、前方後方墳などといわれるものがあります。

いわき地方では、甲塚古墳や金冠塚古墳など有名な円墳があります。また、滑津川下流には、神谷作古墳群、久保、作古墳群など多くの古墳が分布しています。当時の人が使っていた土器は、縄文土器や弥生土器と同じ素焼きの土器で土師器（はじき）と呼ばれています。

龍門寺遺跡出土の高杯
高杯は、杯などに比べ祭祀的な色彩が強く供物をのせた器です。







発掘調査について

考古学は、書物や言い伝えではわからない古い時代の人々が住んだ跡（遺跡）を掘り、当時の人々がどんな生活をしていったのかを研究する学問です。

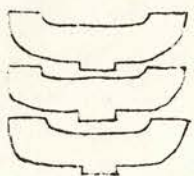
「発掘」は、遺跡を実際に掘ることを言います。しかし、土器が出るからといって、ただ掘るのではないのです。遺跡の中から出たもの（遺物）を図面に記入したり、それを写真にとったりして記録するのです。この記録が発掘後の遺物整理や報告のときに重要な役割りをし、龍門寺遺跡のように壊されるものは記録だけが残りません。



年 表

西暦	時代	時期	当時のようす	龍門寺遺跡	いわき市内の主な遺跡
約2000年	先 土 器 時 代		石器による狩猟、採集の生活をしていった。		泉町・大畑遺跡 上平窪・横山遺跡
		早期	土器づくりが始まる。 (尖底土器)		三和町・竹之内遺跡 小川町・根本遺跡 平鎌田・弘源寺貝塚 三和町・新田遺跡 好間町・愛谷遺跡 平下山口・下山口貝塚
前期	集落が拡大する。	平下高久・久保作洞窟 小名浜・網取貝塚			
中期	貝塚文化が発達する。	平薄磯・薄磯貝塚			
後期	抜歯が流行する。	小名浜・寺脇貝塚			
晩期	漁撈技術が改良される。				
紀元前 500年頃	弥 生 時 代	前期	稲作農業が開始される。		
		中期	金属器が伝わる。		平中塩・中塩遺跡 平赤井・田町遺跡 岩間町・輪山遺跡 好間町・上野遺跡
後期	集落が定着する。				
紀元後 500年頃	古 墳 時 代	前期	農耕が発達する。		平下神谷・内宿遺跡 植田町・館跡遺跡 四倉町・玉山一号墳
		中期	須恵器が伝わる。		平南白土・竹下古墳 平荒田目・甲塚古墳
		後期	仏教が伝わる。 横穴が広く造られる。		平沼内・中田横穴
710年	奈 良 平 安 時 代 (古 代)		都を奈良にうつす(平城京) お寺が建てられる		平下大越・夏井庵寺跡 勿来町・群遺跡
794年		都を京都にうつす(平安京) 須恵器の窯が盛行する。	内郷・金坂遺跡 東田町・金山窯跡		
1160年		白水阿弥陀堂が建てられる	好間町・田代原遺跡		

とじておきまじょう



※ 無断で他人の土地へ入。て掘らないうにしよう!!

編集

(財)いわき市教育文化事業団

(電話) 0246 24-2803

龍門寺遺跡調査係